

## 【国際交流】ホーチミン医科薬科大学・インドネシアステカス大学学生が本学を訪れました

平成 28 年 10 月 26 日から 11 月 4 日までの 10 日間、ベトナムホーチミン医科薬科大学・インドネシアステカス大学学生を留学生として迎え学術交流、学生交流が活発に行われました。

留学生は日本の医療システムや医療教育について本学の授業に参加した他、病院、福祉施設、製薬企業、研究所等を訪問しました。介護・福祉分野では、千葉工業大学富山健教授によるロボット技術に関する講義を受けたり、大和ハウス(株)の協力による介護支援機器(HAL)の装着を体験をしたり、今後ベトナムにも訪れる高齢化社会に向け自国でどう生かせるのか考える機会となりました。薬学生は最先端の研究を目の当たりにし多くの刺激を受けながら本学での実験や演習に真剣に取り組みました。初めて訪れる日本で目を輝かせながら学ぶ学生の姿勢は私たちも大いに見習いたいところです。

本学のボランティア学生は、ホームステイの受入れや学外でのアクティビティ、交流会の企画など留学生が楽しく充実した研修を送れるようサポートし、短期間ながらも学生同士の友情が深まる一時を過ごしました。りんご狩りや、学生宅での鍋パーティーなど、日本ならではのおもてなしは留学生にとってかけがえのない思い出となったことでしょう。来春、本学学生がベトナム、インドネシアを訪れる際の再会を固く約束しての別れとなりました。

留学生からは、「あっという間の 10 日間だった。もっと長く滞在したかった。」「是非このような素晴らしいプログラムを今後も継続してほしい。」という声が多く聞かれ、国を超えて互いに学び合い絆を固くした本研修は、海外提携校との相互交流の意義を再確認するものでした。

本プログラム遂行にあたり、お骨折りくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

\* 本プログラムは、①【インドネシア】学生支援機構海外留学支援制度協定受入プログラム、②【ベトナム】「日本・アジア青少年交流事業(さくらサイエンスプラン)」として採択され国立研究開発法人科学技術機構の支援により、1『医療・福祉分野での支援技術に関する未来医療ロボティクス ～日越の医療・福祉協力に向けて～』 2『日本の創薬および臨床研究の最前線～分子・細胞レベルから臨床レベル、その未来まで～』をテーマに遂行された事業です。



ステカス大学学生・教員・学長を囲んで



富山教授の講義



群馬県社会福祉総合センター訪問



県内観光－吹き割れの滝散策



りんご狩り体験